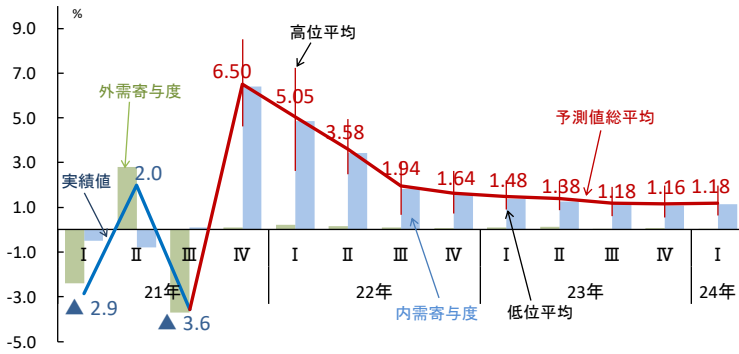


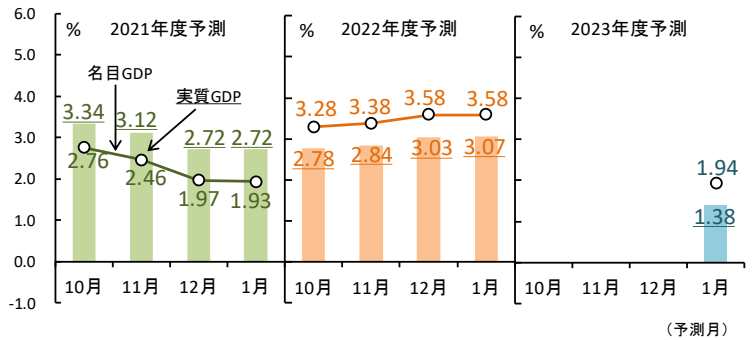
1 2021年10～12月期の実質経済成長率(前期比年率)は6.50%、22年1～3月期は5.05%。

21年10～12月期の実質経済成長率(前期比年率)は6.50%、22年1～3月期は5.05%だった。



2 実質経済成長率は21年度2.72%、22年度は3.07%と前月調査並み。23年度は1.38%。

21年度の実質経済成長率は2.72%と3年ぶりにプラスに転じる。22年度は伸び率が高まり、23年度は鈍化する。名目成長率も22年度まで伸び率が高まり、23年度に鈍化する。



◆21年IV期(10～12月期)実質GDP及び内訳の増減率(%)

実質GDP 前期比年率 (前期比)	民間最終消費支出	民間企業設備投資	財貨・サービスの輸出	財貨・サービスの輸入
6.50 (1.58)	2.27	1.79	0.93	0.80

(注) 内訳4項目は前期比。

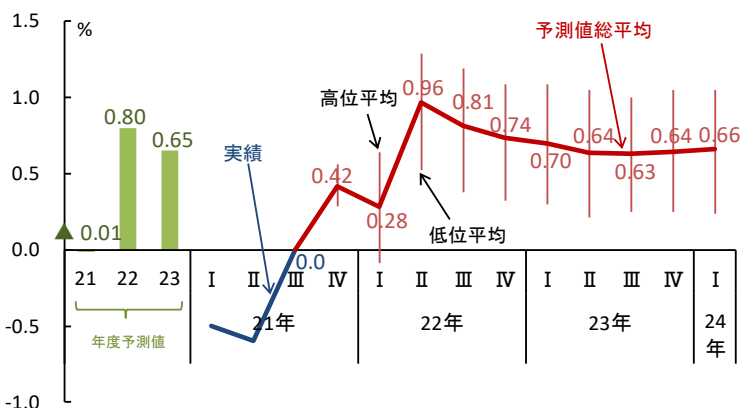
	2021年度	2022年度	2023年度
内需寄与度	1.9(2.2/1.7)	2.9(3.5/2.4)	1.3(1.9/0.9)
うち民需	1.7(2.0/1.5)	2.6(3.3/2.0)	1.1(1.7/0.7)
うち公需	0.2(0.3/0.1)	0.3(0.6/0.1)	0.1(0.3/▲0.1)
外需寄与度	0.8(0.9/0.7)	0.1(0.5/▲0.2)	0.1(0.3/▲0.2)
実質GDP 成長率	2.72 (3.01/2.45)	3.07 (3.66/2.56)	1.38 (1.88/0.99)

(注1) 値の見方: 平均(高位平均/低位平均)

(注2) 1・2の寄与度は簡易計算によるもので厳密なものではない。

3 消費者物価上昇率(前年同期比)

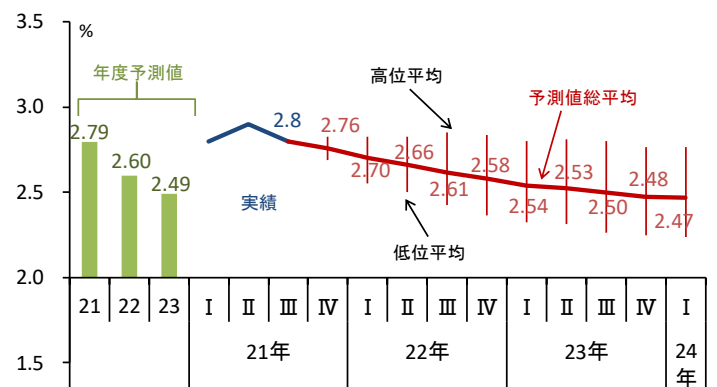
21年7～9月期の0.0%(実績)から、10～12月期に0.42%に上昇する。22年1～3月期に0.28%に低下するが、4～6月期に再び0.96%まで上昇、以降0.6%～0.8%の間で推移する。年度では21年度の▲0.01%から、22年度以降プラスに転じる。



(注) 生鮮食品除く総合の前年同期比上昇率。

4 失業率

21年10～12月期は2.76%の見込み。以降24年1～3月期まで低下が続く。



5 21年10～12月期の成長率（その他項目）

主要4項目以外の需要項目について、21年10～12月期の動きを尋ねた。上昇するという回答が多い項目は、「民間住宅投資」と「政府最終消費」だった。

（回答数36）

（実質）	民間住宅投資	民間在庫変動	公的固定資本形成	政府最終消費	公的在庫変動
上昇	27	12	16	22	2
横ばい	5	15	4	9	34
低下	4	9	16	5	0
回答数	36	36	36	36	36

（注）フォーキャスター数（名）。前期比伸び率の符号を質問し、プラスの場合に「上昇」、ほぼゼロの場合に「横ばい」、マイナスの場合に「低下」とした。在庫変動はGDP成長率に対する寄与度を尋ねた。

6 景気の転換点・・・20年5月が谷

20年5月の景気転換点（谷）（政府見解、暫定）の次の景気転換点（山）はもう過ぎたかどうかを聞いた。（回答数35）

・はい（＝過ぎたと思う人）・・・1名（前月調査1名）

転換点（山）は2021年4月・・・1名

・いいえ（＝過ぎていないと思う人）・・・34名（同33名）

今後1年以内に転換点（山）がくる確率の予測の平均・・・26.3%（同23.6%）

転換点（山）を過ぎたと思う人にその次の景気転換点（谷）も過ぎたかどうかを聞いた。

・はい（＝過ぎたと思う人）・・・1名（前月調査1名）

転換点（谷）は2021年10月・・・1名

転換点（谷）を過ぎたと思う人にその次の景気転換点（山）も過ぎたかどうかを聞いた。

・はい（＝過ぎたと思う人）・・・0名

・いいえ（＝過ぎていないと思う人）・・・1名

今後1年以内に転換点（山）がくる確率の予測の平均・・・35.0%

7 （特別調査）金融政策と金利見通し

1) 金利見通し

22、23年末の短期政策金利と長期金利の誘導目標の見通しを尋ねた。短期の政策金利は、22年末は回答者全員が現行並みの「▲0.1%以上0.0%未満」と回答し、23年末も「▲0.1%以上0.0%未満」が多かった。（回答数22年36、23年35）

長期金利の誘導目標は、22、23年末とも現行並みの「0.0%以上0.1%未満」が多かった。（回答数22年36、23年34）

長短金利の予想値分布 （%）	▲0.3 未満	▲0.3 ～ ▲0.2	▲0.2 ～ ▲0.1	▲0.1 ～ 0.0	0.0 ～ 0.1	0.1 ～ 0.2	0.2 ～ 0.3	0.3 ～ 0.4	0.4 ～ 0.5	0.5 ～ 0.75	0.75 ～ 1.0	1.0以上
	短期の政策金利	▼										
現行=▼	▼											
2022年末				36								
2023年末			1	31	3							
長期金利の誘導目標	▼											
現行=▼	▼											
2022年末					35	1						
2023年末				1	31	1	1					

（注）フォーキャスター数（名）。例えば、「▲0.1～0.0」は「▲0.1%以上0.0%未満」の意味。

2) 枠組み自体の変更

上記の見通しに関して枠組み自体の変更などを聞いたところ、長期金利の誘導目標の変更など2名のフォーキャスターが答えた。

[詳細は9ページ参照]

8 (特別調査) 米国金利

1) 政策金利見通し

22、23 年末の米国の政策金利（FFレート・市場実勢値）の予想を尋ねた。回答が多かったのは、22 年末は「0.75%以上 1.0%未満」、23 年末は「1.5%以上 1.75%未満」だった。

(回答数 22 年 36、23 年 34)

米FFレートの予想値分布(%)	▲0.75 ～ ▲0.5	▲0.5 ～ ▲0.25	▲0.25 ～ 0.0	0.0 ～ 0.25	0.25 ～ 0.5	0.5 ～ 0.75	0.75 ～ 1.0	1.0 ～ 1.25	1.25 ～ 1.5	1.5 ～ 1.75	1.75 ～ 2.0	2.0 ～ 2.25	2.25 ～ 2.5
2022年末				1	4	8	20	3					
2023年末					1	2	1	5	4	16	4	1	

(注) フォーキャスター数 (名)。例えば「0.75～1.0」は「0.75%以上 1.0%未満」の意味。

2) 長期金利見通し

22 年 6 月末～23 年 12 月末の米国の長期金利（10 年国債）の予想を尋ねた。回答が多かったのは、22 年 6 月末は「1.7%以上 1.8%未満」、12 月末は「1.9%以上 2.0%未満」、23 年 6 月末は「2.0%以上 2.1%未満」だった。23 年 12 月末は回答が分散する。

(回答数 22 年 35、23 年 6 月末 34、12 月末 33)

米国の長期金利 (10年国債)の 予想値分布(%)	1.0 ～ 1.1	1.1 ～ 1.2	1.2 ～ 1.3	1.3 ～ 1.4	1.4 ～ 1.5	1.5 ～ 1.6	1.6 ～ 1.7	1.7 ～ 1.8	1.8 ～ 1.9	1.9 ～ 2.0	2.0 ～ 2.1	2.1 ～ 2.2	2.2 ～ 2.3	2.3 ～ 2.4	2.4 ～ 2.5	2.5 ～ 2.6	2.6 ～ 2.7
22年6月末	1				1		2	14	8	6	1	1		1			
22年12月末			1					4	5	10	7	5	3				
23年6月末								2	1	6	9	3	8	2	3		
23年12月末								2		4	4	7	1	7	4	2	2

(注) フォーキャスター数 (名)。例えば「1.0～1.1」は「1.0%以上 1.1%未満」の意味。

9 景気のリスク

◆景気のリスク(複数回答、3つまで)

半年から 1 年後にかけて景気上昇を抑える（あるいは景気を反転させる）可能性がある要因を聞いた。「新型コロナウイルスの感染状況」が最も多く、「中国景気の悪化」がそれに続く。「その他」に 4 名が回答し、供給制約（2 名）、商品市況の高騰、米国の過度の金融引き締め、予想以上のインフレを挙げた。

(回答数 35)

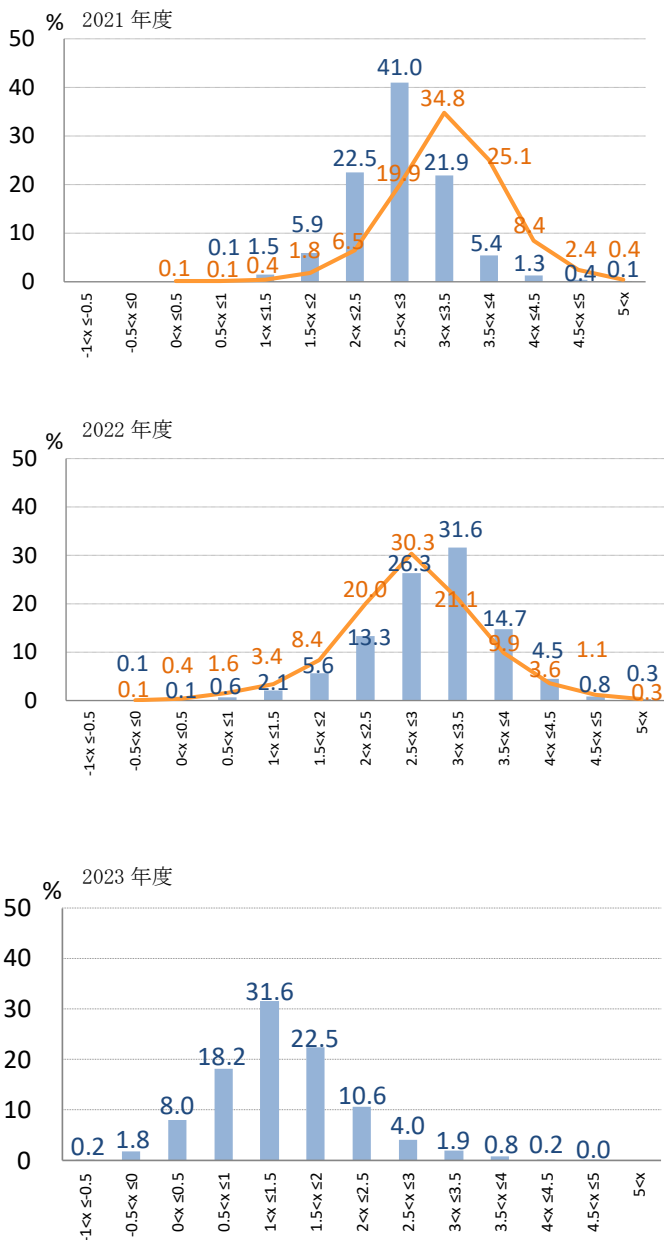
[リスクとして挙げた理由（17 名が回答）については 9 ページを参照]

① 円高	2
② 株安	4
③ 金利上昇	6
④ 原油価格の上昇	11
⑤ 公共投資の減少	0
⑥ 米国景気の悪化	11
⑦ 中国景気の悪化	26
⑧ IT部門（電子部品など）の悪化	1
⑨ 国内政治の不安定化	0
⑩ 国際関係の緊張や軍事衝突	4
⑪ 保護主義の高まり	0
⑫ 新型コロナウイルスの感染状況	30
⑬ その他	4

(注) フォーキャスター数 (名)。

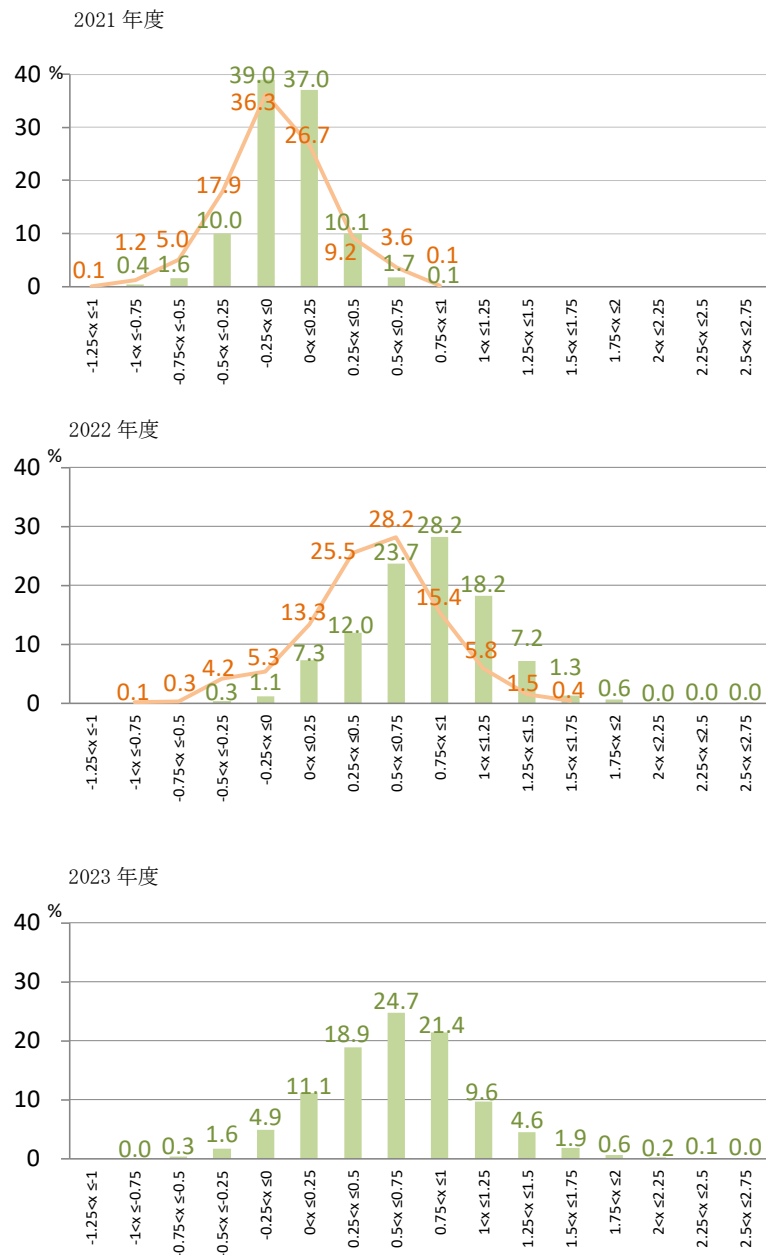
実質 GDP 増加率のコンセンサス予測の不確実性

-各レンジの平均確率-



CPI(生鮮食品除く総合)騰落率のコンセンサス予測の不確実性

-各レンジの平均確率-



(注)各フォーキャスターが各レンジに付した確率の平均値。折れ線グラフは、21年10月の予測値。

(参考) 海外主要3カ国・地域の実質GDP成長率予測 (暦年、%)

	米国	ユーロ圏	中国
2020年	▲3.4	▲6.4	2.3
2021年	5.59 (5.56)	5.10 (5.06)	8.06 (8.05)
2022年	4.03 (4.01)	3.99 (4.03)	5.19 (5.20)
2023年	2.40	2.29	5.15

(注) 20年は実績値。()内は前月調査。

次回(2022年2月調査)の公表予定は2月9日頃